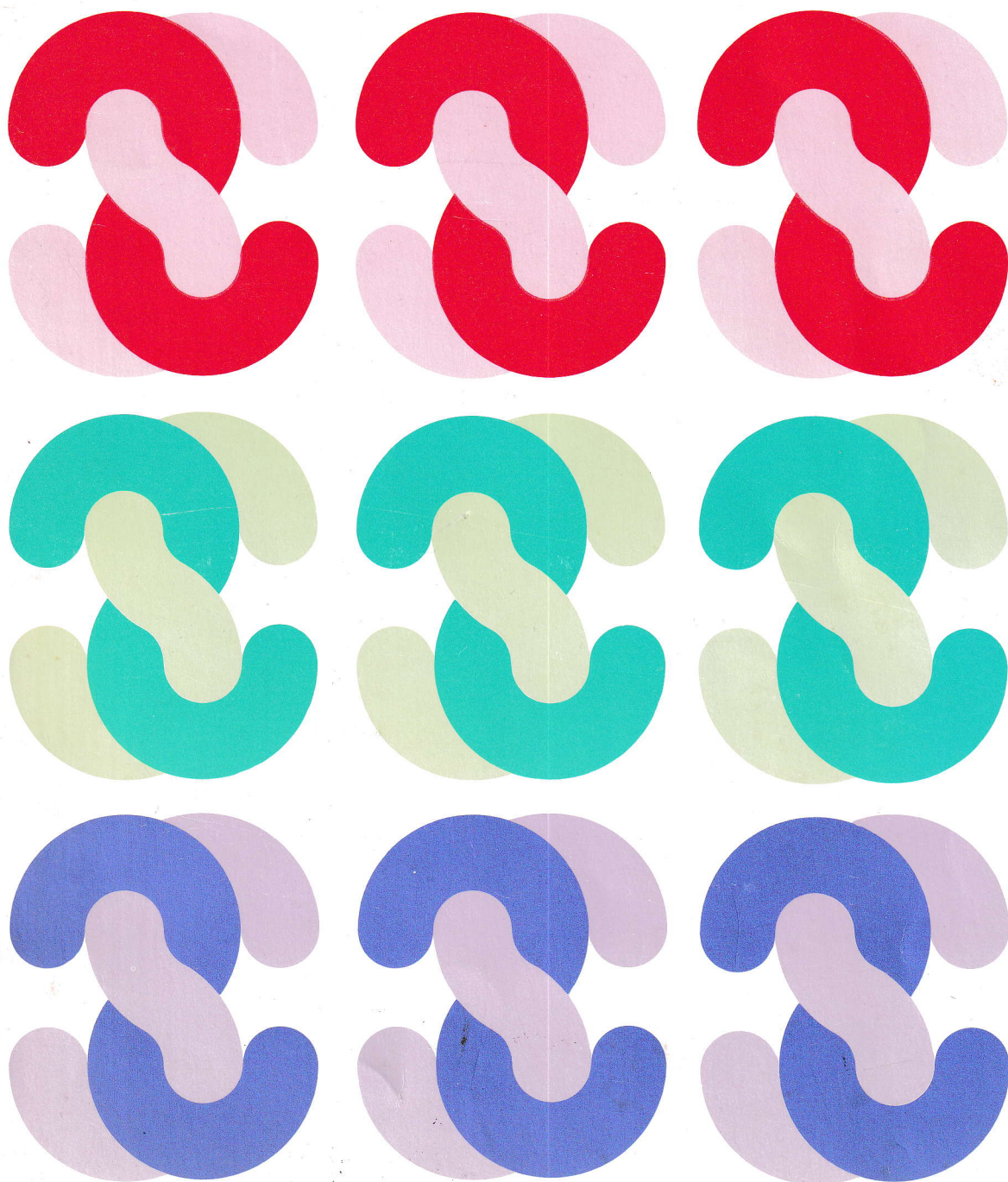


シルバー編機

カンタンバルキー

ご使用の手引き



お買い上げ誠にありがとうございました

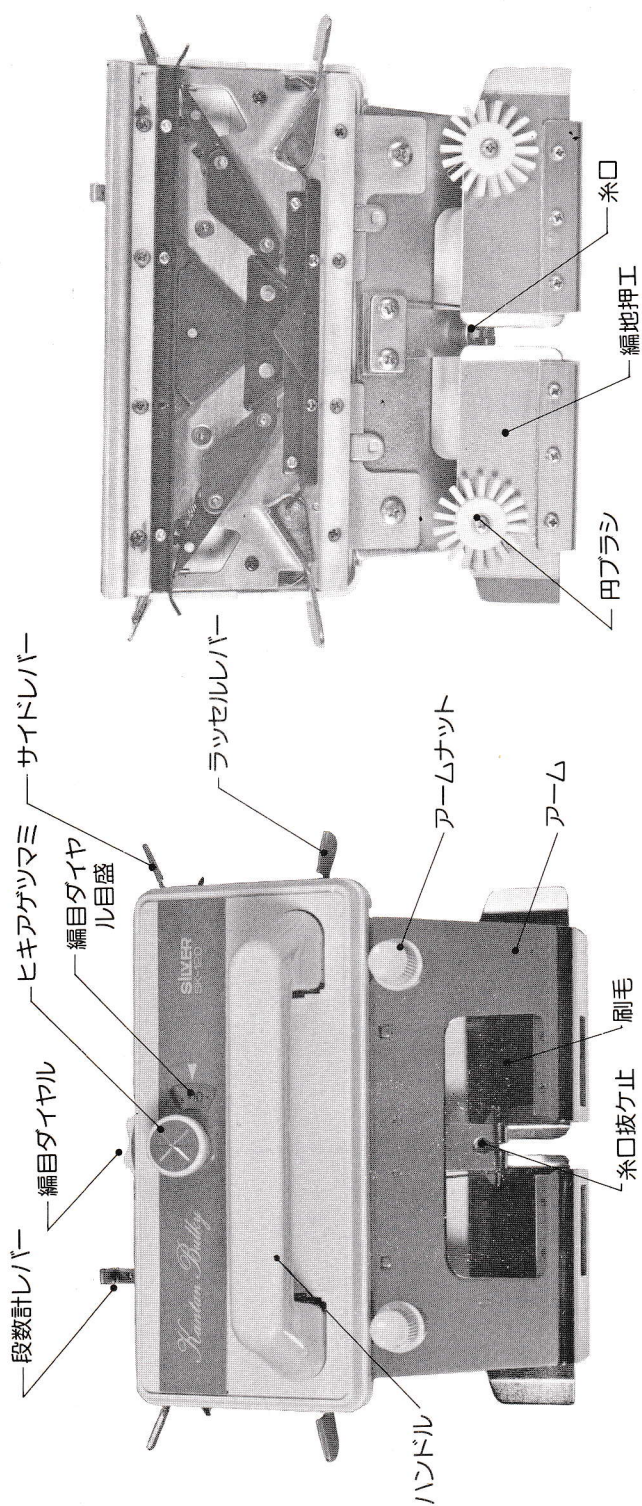
手あみ機カンタン・バルキーのすばらしい特長とその正しい使い方
をご理解いただくために、どうぞこの説明書をよくお読みになって
美しいバルキー編をお楽しみ下さい。

目 次

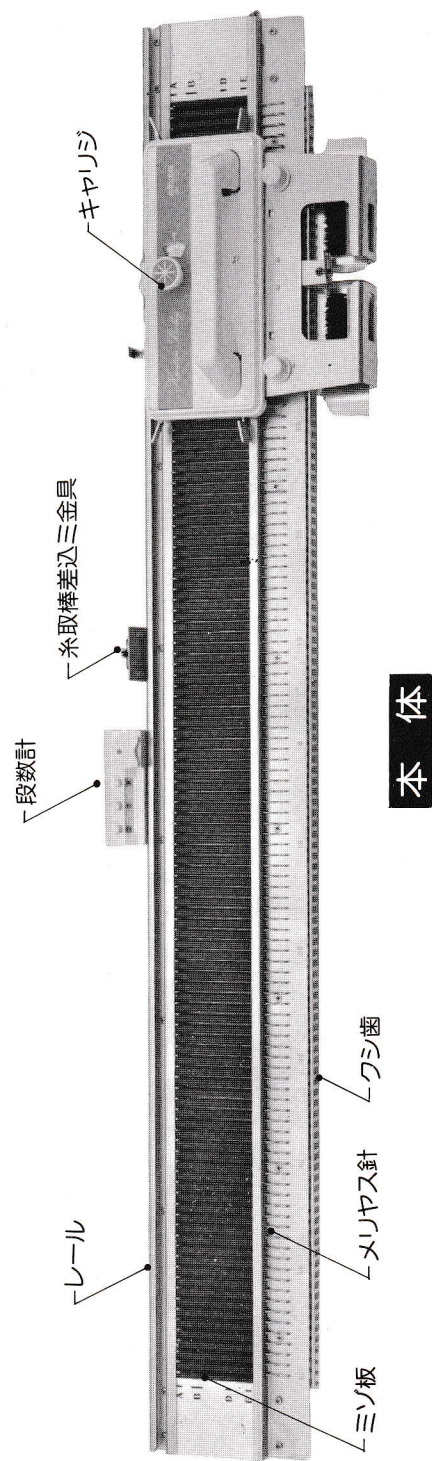
各部のなまえ	1
組み立て方	3
編む準備	4
各部のはたらき	
メリヤス針の位置	5
編目ダイヤルとヒキアゲツマミ	5
ラッセルレバーとサイドレバーの操作	6
編み始め方	7
色々な編み方	
引上げ編	9
編込み	10
引き返し編 編む部分を減らしていく方法	11
引き返し編 編む部分を増やしていく方法	12
ゴム編(1目ゴム編)	13
なわ編	14
こんなときには	
メリヤス針の交換	15
編んでいる途中でキャリジが動かなくなった時	16
編地の解き方	16

各部のなまえ

キャリジ裏面



キャリジ表面

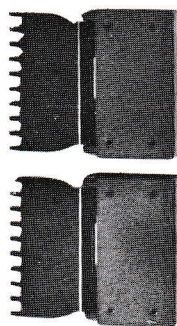


本体

付 属 品



編出シ板



オモリ



柄板1/1



柄板1/3



取付金具



抜ギ糸



ブラシ



油



キャリジ止メ具



ウツシ(1~3)



ウツシ(2~3)



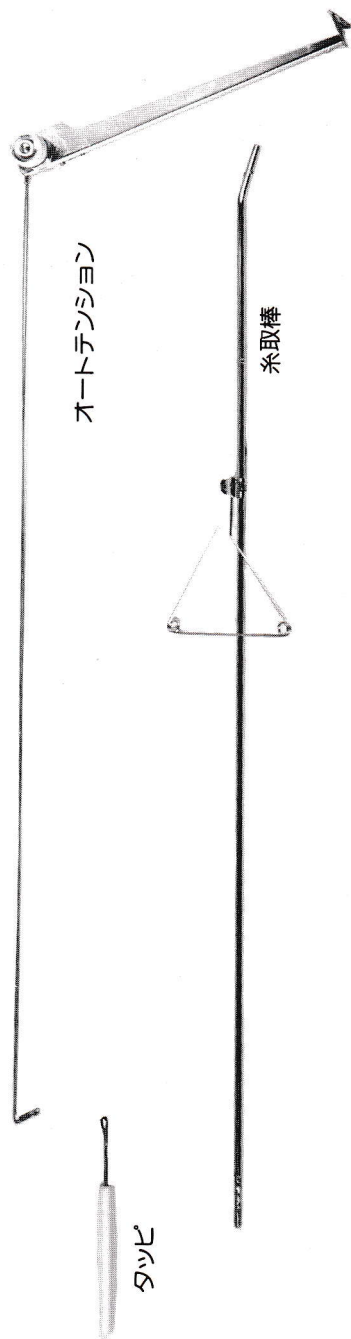
ウツシ(1~2)



替針2本



針押え取出し棒



オートテンション

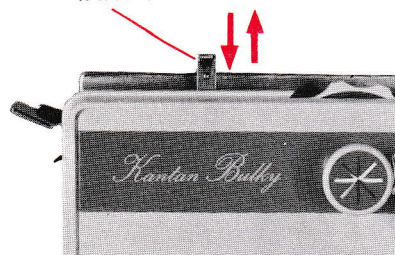
タツビ

糸取棒

組み立て方

オートテンションを
糸取棒の先端に差し
込みます。

段数計を作動させる時は、この
段数計レバーを引き出します。



段数計を差し込み
ます。

糸取棒を差し込みます。
(曲っている方が上です)

ハンドルを起こして
キャリジにしっかりと
押し込みます。

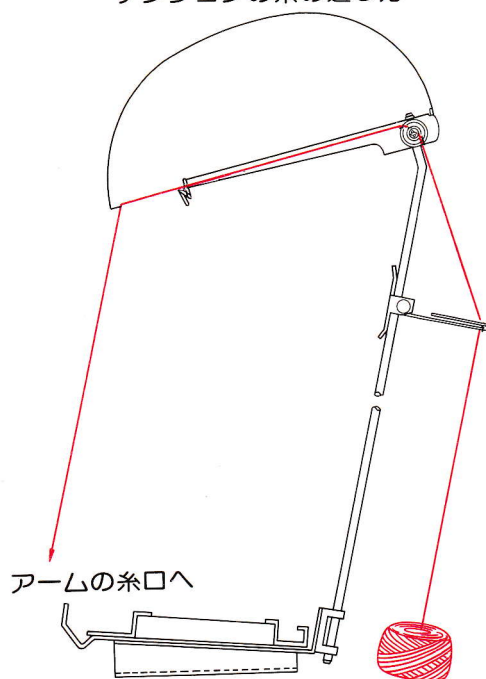
取付金具で本体を
テーブルの端に締め付けます。

アームナットを充分ゆるめ
アームを奥までいっぱい
差込み、アームナットをし
っかり締め付けます。

アームナットをゆるめて
キャリジ止メ具をはずす。

編む準備

糸取棒のタテ方と
テンションの糸の通し方

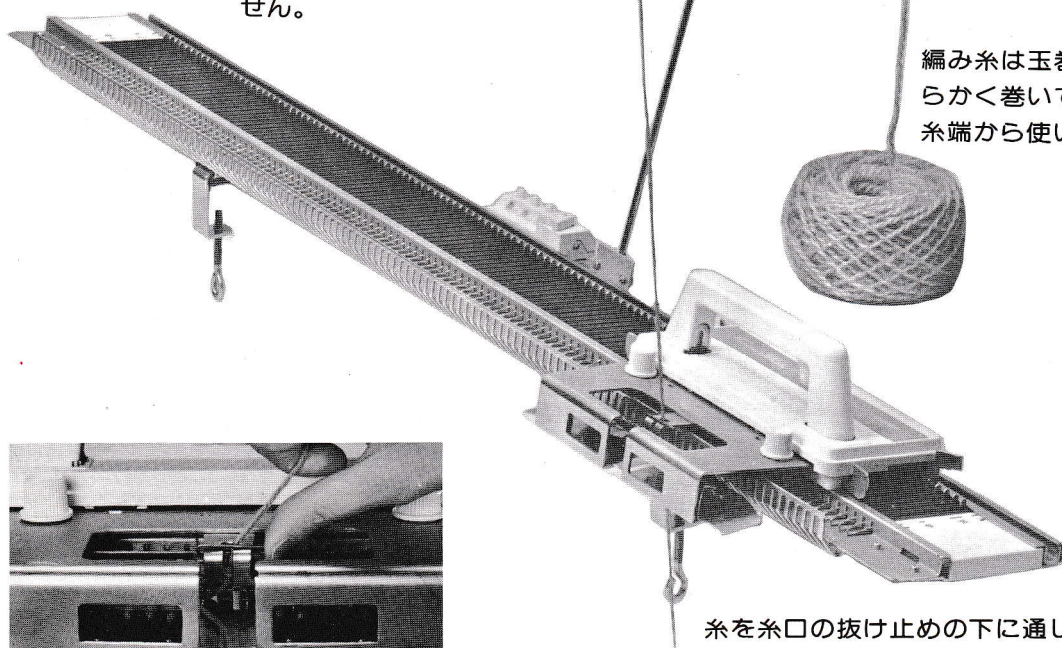


編み始めに糸がバネに引かれて
ピンと張っていなければいけま
せん。

バネ

オートテンション

編み糸は玉巻器でやわ
らかく巻いて、内側の
糸端から使います。

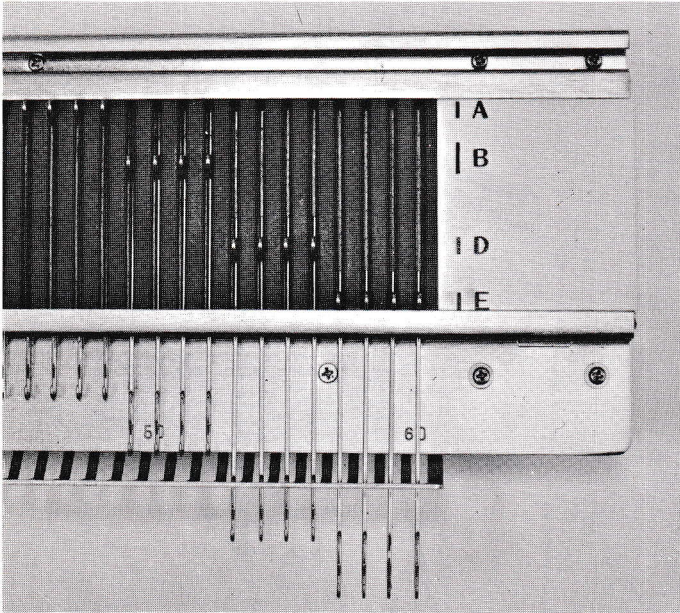


糸を糸口の抜け止めの下に通し、
抜け止めを親指の先で押しながら下の
糸端を奥の方へ押し込みます。

各部のはたらき

メリヤス針の位置

ミゾ板の両端には A・B・D・E の印があり、I の範囲で針を出す位置を示します。



A位置……キャリジを操作してもメリヤス針は動きません。
(編めません)

B位置……メリヤス針は普通この位置で使います。

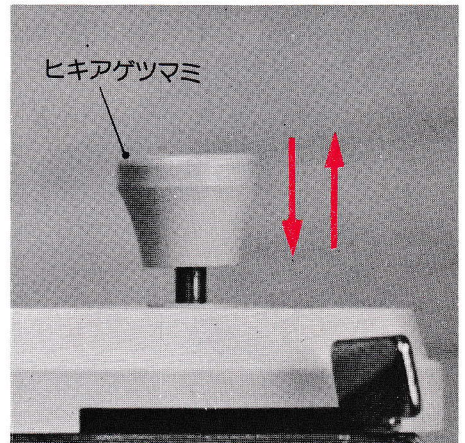
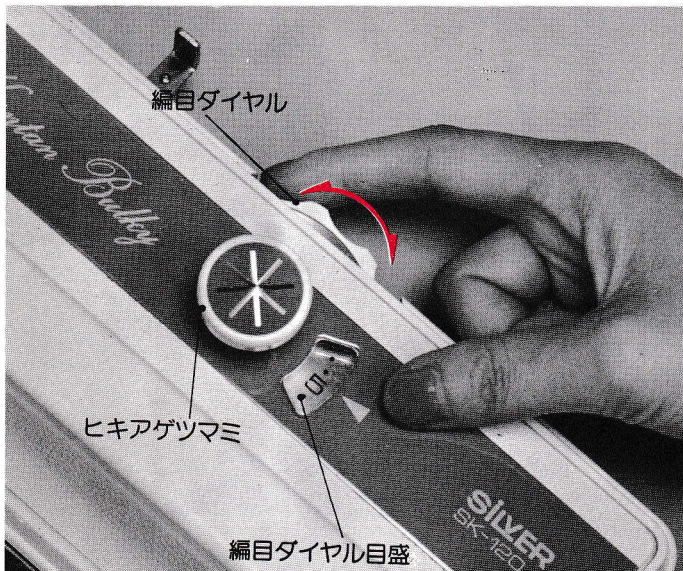
D位置……この位置におかれたメリヤス針は必ずヒラアミになります。

E位置……引き返し編や模様板で選針するとき、この位置にメリヤス針をおきます。

編目ダイヤルとヒキアゲツマミ

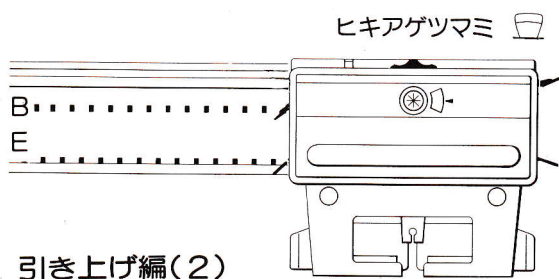
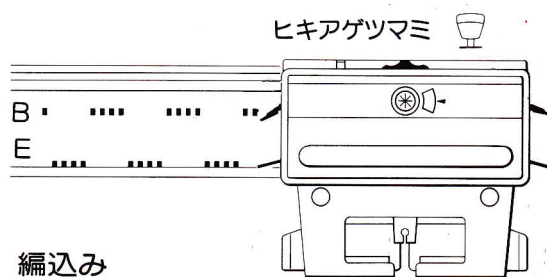
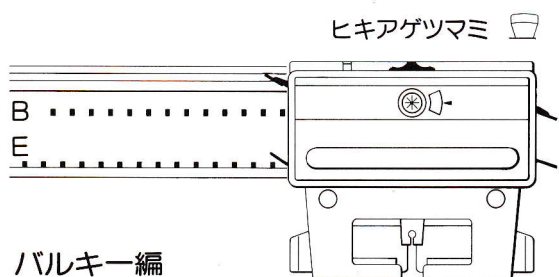
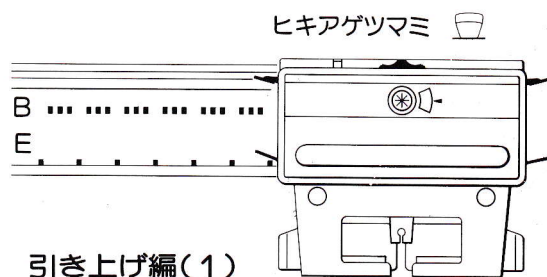
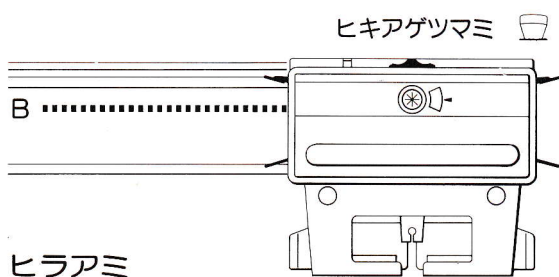
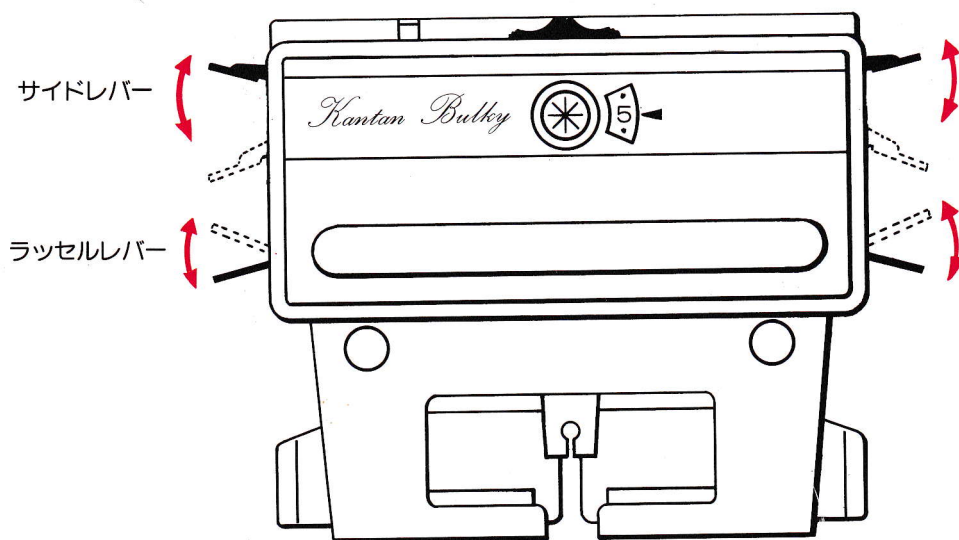
編目ダイヤルは使う毛糸の太さに応じて編目の大きさを調節する役目をします。

編目ダイヤル目盛の数字が大きいほど編目は大きくなります。



ヒキアゲツマミは上下の位置があります。

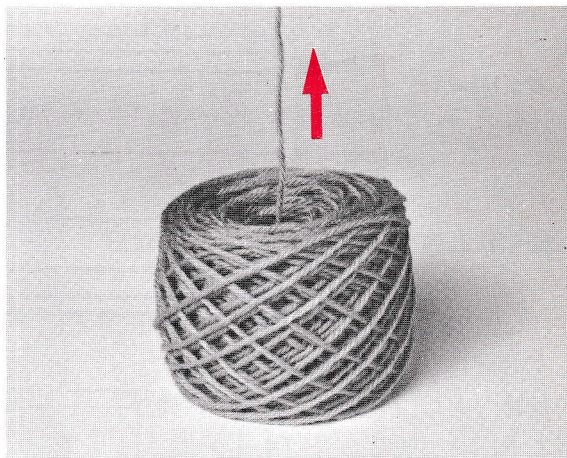
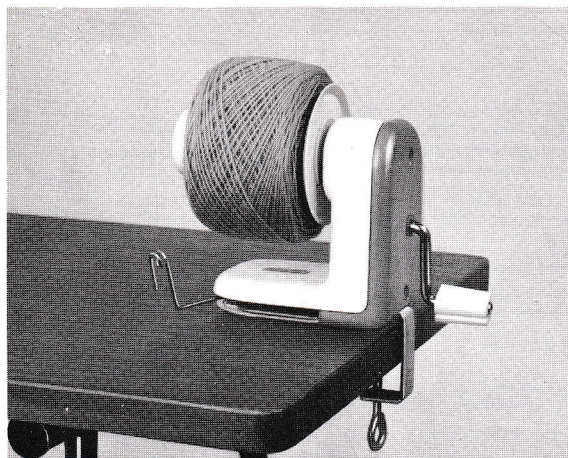
ラッセルレバーとサイドレバーの操作



ラッセルレバーとサイドレバーの位置は、編み方によって図の様に種々の組合せがあります。

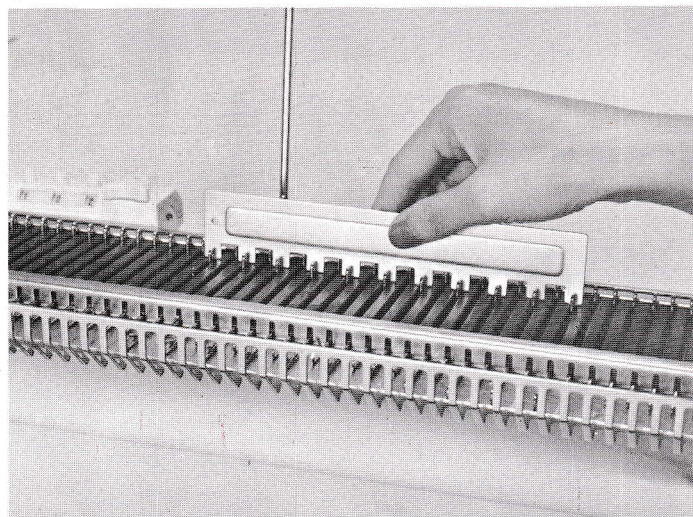
編み始め方

1 編み糸を用意します。

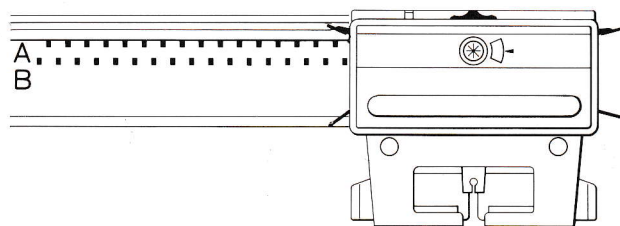


練習には並太毛糸を使用しましょう。編糸はやわらかく玉巻きにして内側の糸端から使います。内側の糸端を引いてスムーズに出て来るかどうかたしかめてみましょう。

2

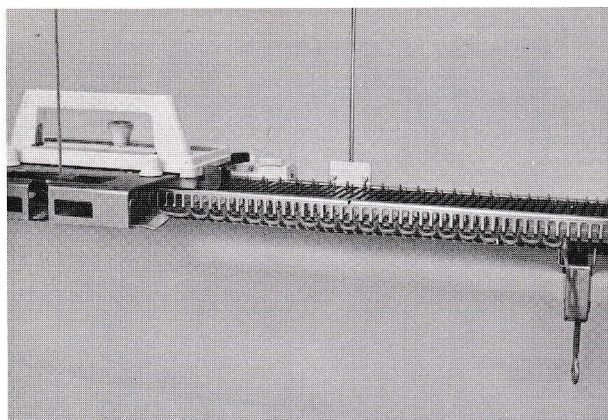


編み巾に応じ、柄板1/1を使って、メリヤス針を1本おきにB位置に出します。



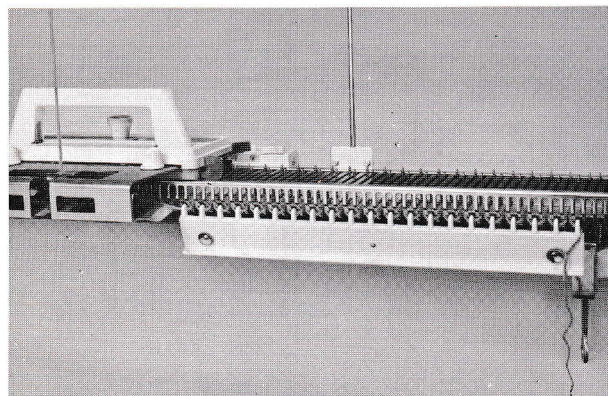
ラッセルレバーとサイドレバーを夫々ヒアラミの位置にセットします。
キャリジをゆっくり往復させてみます。

3

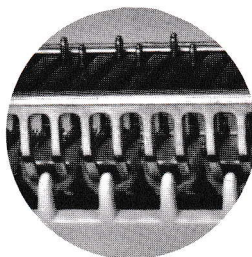


毛糸を糸口に通し、ゆっくりとキャリジを動かしますと毛糸が図の様にかゝります。

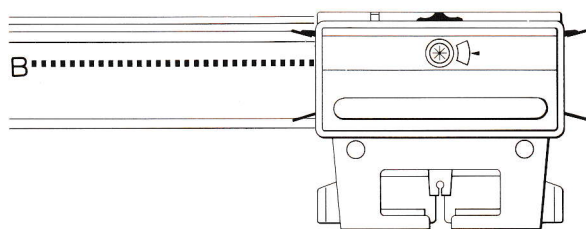
4



編出し板を図の様にかけます。



5



残りのA位置にあるメリヤス針をB位置に出します。

続いてゆっくりとキャリジを動かしますとヒラミができてゆきます。

この時、左手でかるく編出し板を下に引張つてやるとスムーズに編出しができます。

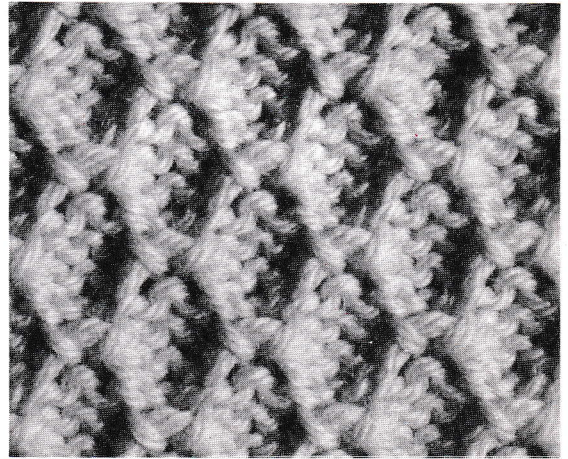
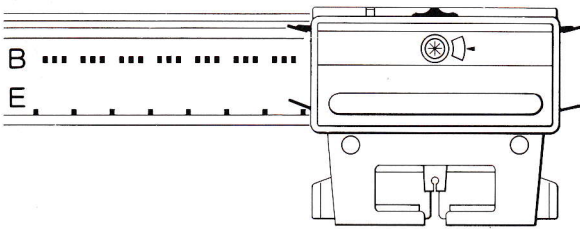
このままキャリジを往復させて編んでゆきます。

(注) キャリジは動かし始めたらけっして途中でどさないで下さい。編んでいる最後のメリヤス針を完全に通過してから戻す様にします。

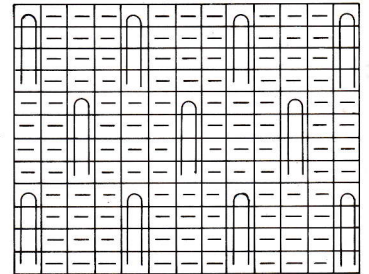
実際に作品を編む場合には、まず最初に、不要の毛糸などで編み出しをした後、5～6段ヒラミを編みます。(これを捨て編といいます。)次に作品を編む糸を糸口に通しかえ、段数計を0にセットしてから作品に編み進みます。

色々な編み方

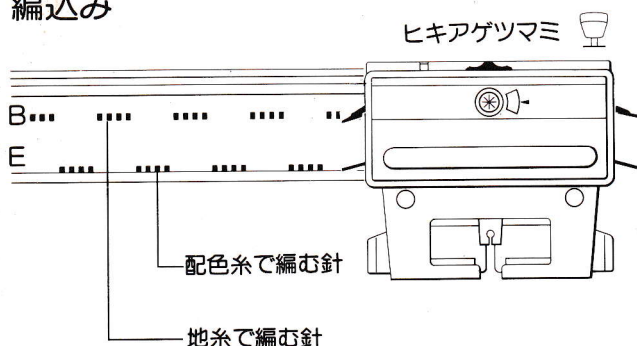
引き上げ編



1. 引き上げるメリヤス針をE位置に出します。
2. ラッセルレバーを図の位置にセットします。
3. キャリジを一回動かすと一段引き上げ編みが出来ます。糸の種類にもよりますが、そのまゝ3段ぐらい返は引き上げ編が出来ます。
4. 次にヒラアミにもどる時は、ラッセルレバーをヒラアミの位置にもどして編みますと、メリヤス針は全部B位置にもどってヒラアミが編めます。



編込み

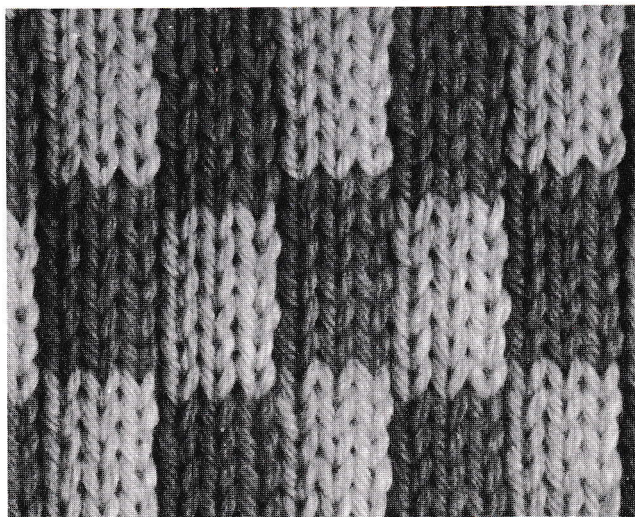


1. ラッセルレバーとサイドレバーを図の位置にセットします。
2. ヒキアゲツマミを引上げておきます。
3. 編込もうとする配色糸で編むところのメリヤス針をE位置に出します。
4. 地糸を糸口からはずし、代りに配色糸を糸口にかけます。
5. キャリジを動かして1段編みます。
6. 針は全部B位置にもどりますから再び配色糸で編む針をE位置に出して1段編みます。

こうして1段毎にE位置に出して編んでゆきます。

7. 地糸にもどるときは、糸口から配色糸をはずし地糸にかけかえます。
8. 地糸で編む針をE位置に出し、配色糸で編む針をB位置にもどします。
9. 1段編むと全部の針がB位置にもどります。編む針をE位置に出しながら1段ずつ編んでゆきます。

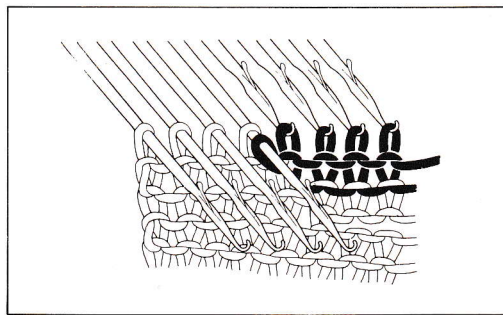
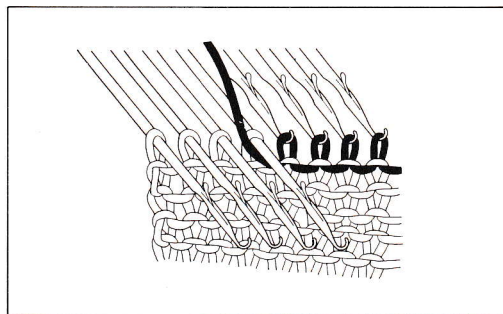
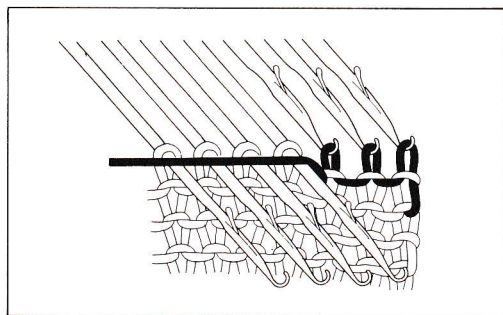
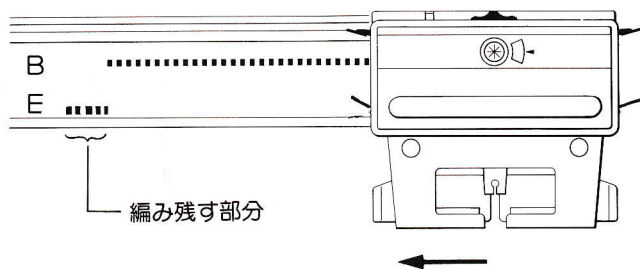
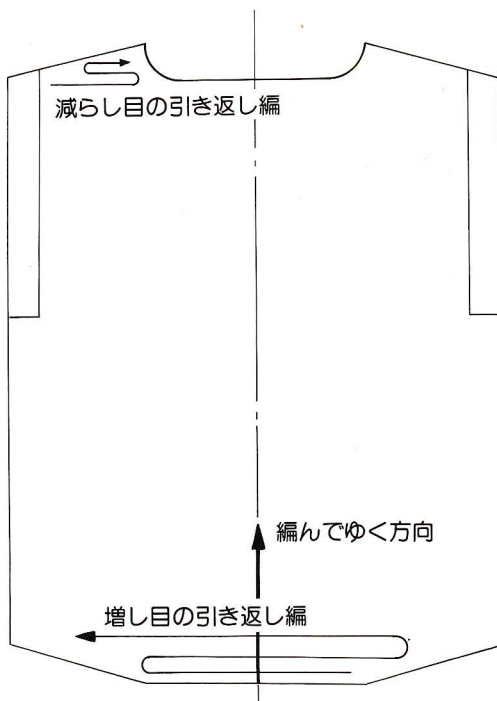
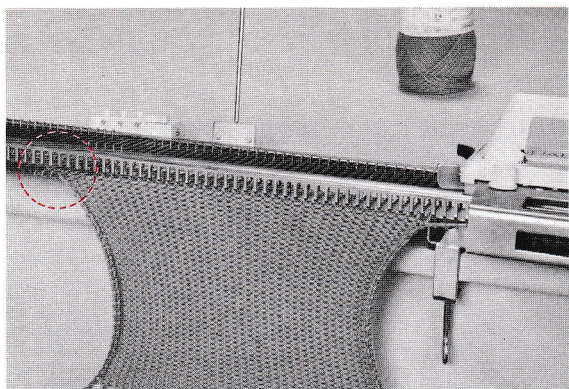
注. 模様によって編地の端の方で、地糸と配色糸の境目が開いてきれいに編めないことがあります。このときは、毎段、キャリジのある側の端の針1本をE位置に出してから編んでください。(端の針がすでにE位置に出してある時は、そのまま編みます。)



引き返し編

編む部分を減らしていく方法

(編み残しの引き返し編)

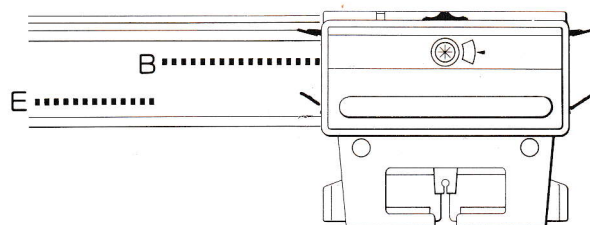


1. キャリジと反対側の編み残す部分の針をE位置に出します。
2. ラッセルレバーを図の位置にセットします。
3. 1段編みます。B位置の針が編めてE位置に出した針は編めずに糸が針の上に渡ります。
4. 次に引き返して編むときに穴が出来ない様にするため、編み終った隣のE位置にある針に糸を下からかけておきます。
5. 1段編みもどりますと1図の引き返し編みができます。
6. 順次E位置に出す針を増して、3・4・5の手順をくりかえします。

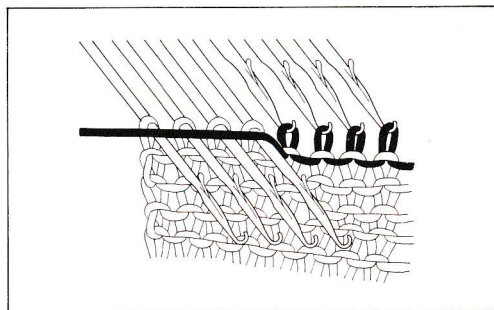
引き返し編

編む部分を増やしていく方法。

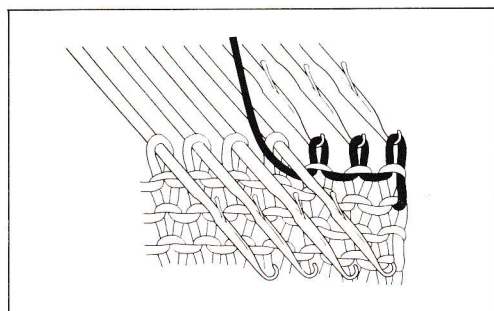
(編み進みの引き返し編み)



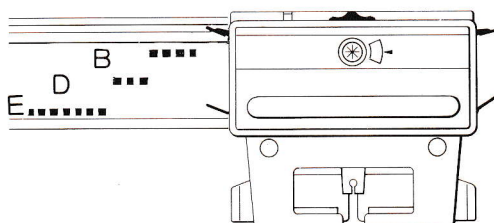
1. キャリジ側の最初に編むメリヤス針をB位置に置き、その他のメリヤス針はE位置にだします。
2. 1段編みます。B位置の針のみ編めてE位置に出した針は、編めずに糸が針の上に渡ります。



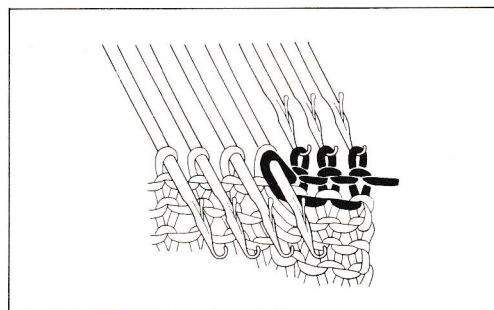
3. 穴があかないように編み終った隣のE位置のメリヤス針に糸を下からかけてから1段編み、もどりますと1回の引き返し編みができます。



4. E位置にあるメリヤス針を編み増す分だけD位置にもどして3段目を編みます。

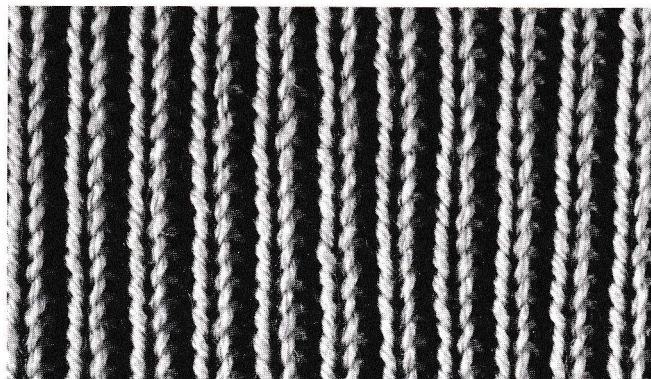


5. 穴があかないように編み終った隣のE位置のメリヤス針に糸を下からかけてから1段編みもどりますと、2回目の編み進んだ引き返し編ができます。



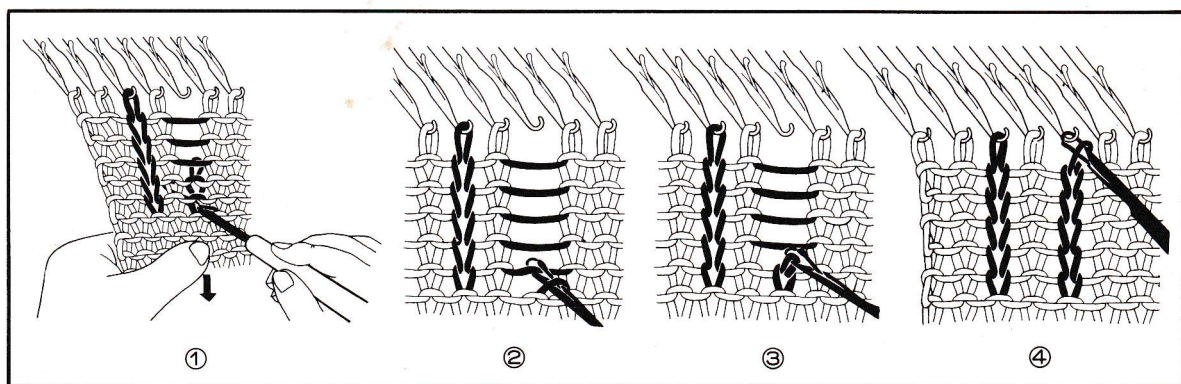
6. 以下、4・5をくりかえします。

ゴム編(1目ゴム編)



—		—		—		—		—		—		—		12
—		—		—		—		—		—		—		11
—		—		—		—		—		—		—		10
—		—		—		—		—		—		—		9
—		—		—		—		—		—		—		8
—		—		—		—		—		—		—		7
—		—		—		—		—		—		—		6
—		—		—		—		—		—		—		5
—		—		—		—		—		—		—		4
—		—		—		—		—		—		—		3
—		—		—		—		—		—		—		2
—		—		—		—		—		—		—		1
12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1			

ゴム編は編目調節ダイヤルの目盛をヒラアミより1目盛小さくします。



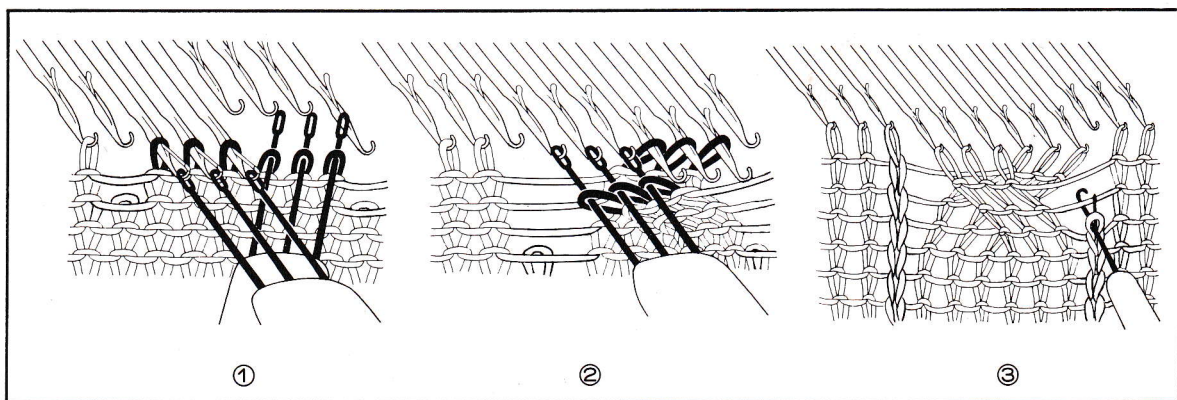
* ゴム編にする段数だけヒラアミをします。

- 〈1〉 裏目にかえす針をD位置へ出し、B位置へもどすと目がはずれ編目がほどけてきます。
- 〈2〉 ゴム編にする一番下の編目にタツピをさしこみ、更にこの段までほどきます。
- 〈3〉 タツピを一度深く向う側へ押しこんでから、ほどけて横に渡っているすぐ上の段の糸をフックにかけて引き出します。
- 〈4〉 以上の動作をくり返して最後の段の編目をメリヤス針に移します。

編 わ な



					-						-									14	
					-							-									13
					-							-									12
					-							-									11
					-							-									10
					-							-									9
					-							-									8
					-							-									7
					-							-									6
					-							-									5
					-							-									4
					-							-									3
					-							-									2
					-							-									1
16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1						



* ラッセルレバーを手前に引きます。

ヒラアミを6段編みます。

〈1〉 なわ編をする目の両外側の目を針からはずします。

3目のウツシを2本使い、一方のウツシで3目を一度にとり、もう一方のウツシで隣の3目も一度にとります。

〈2〉 ウツシにとつた編目を交差させ、それをお互いに相手のあき針にかけます。

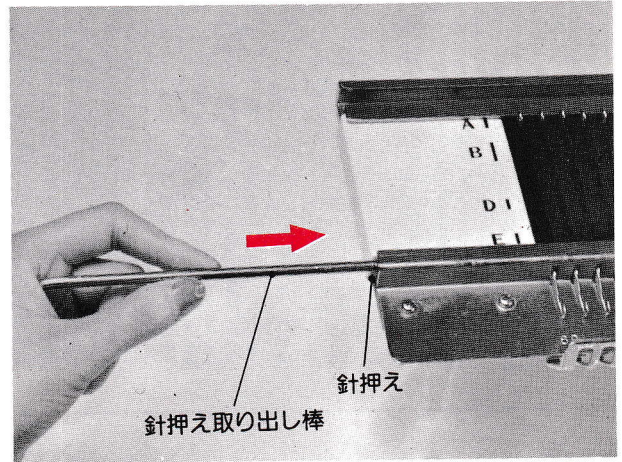
〈3〉 編目を交差した針をE位置に出して、ヒラアミを6段編みます。

これをくり返して2～3模様位編みましたら、なわ編の両外側の目を裏目になおします。(ゴム編の項を参照)

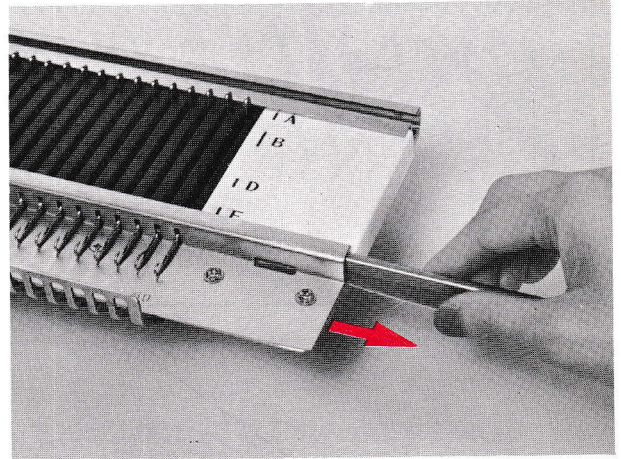
こんなときには

メリヤス針の交換

1. メリヤス針が破損して交換したい時には
針押えを片方からミソ板の中へ押し込み
ます。

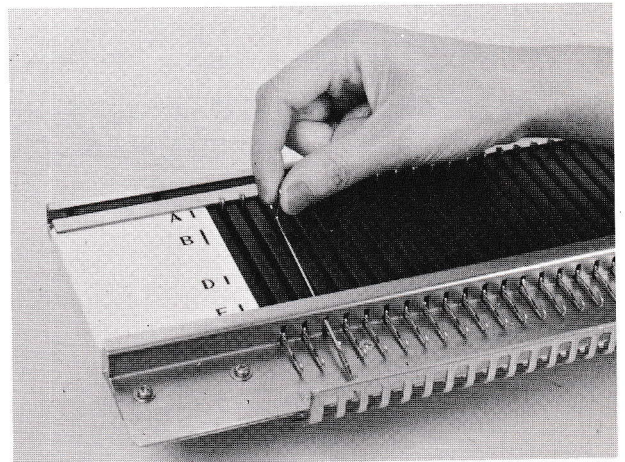


2. 反対側へ出た針押えを引き抜きます。
針押えの端が取り替えたいメリヤス針か
ら外れるところまで抜いて下さい。



3. 取り替える針のバットをつまんで引き出
します。

4. 新しい針のペラを開いてはずした時と逆
の順序で入れて下さい。



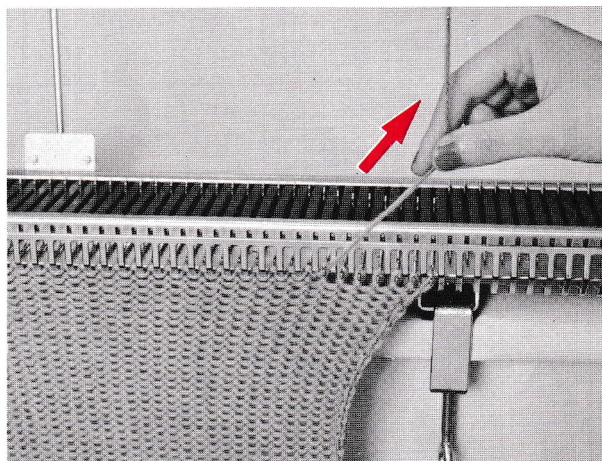
編んでいる途中でキャリジが動かなくなった時

無理に動かさずキャリジをはずして編み直して下さい。

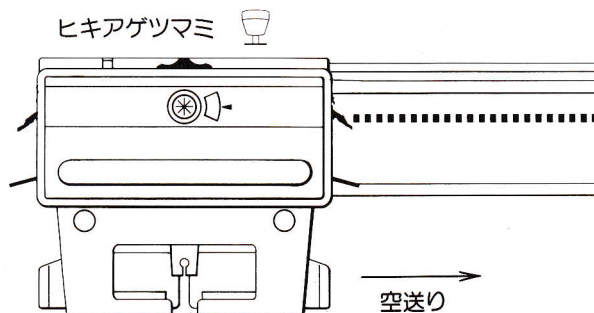
1. アームをとりはずします。
2. キャリジの手前をもち上げて、そのまま横へずらして編地のない所へ進め、もと通りにアームを取付けます。

編地の解き方

1. 編地が浮かないように手で編地を下に引くように押えながら編み終りの糸をフシ歯と平行にひき、編目を引き絞り、糸を斜め上にペラを開くように引っ張りながらほどこますと前の段の編目が自然に針のフックに掛かります。
こうして編み直したい段までほどこます。



2. キャリジを糸端のある側へ空送りさせます。
空送りの方法は右図の様にセットします。



3. 段数計の数字をほどいた段数だけ戻します。

編目記号表

手編機編み目, 棒針編み目の編み目記号表

記号	図解	名称と意味	記号	図解	名称と意味
I		表目 ヒラミの表目	X		左上交差 左のループが上になって交差している編み目
—		裏目 ヒラミの裏目	V		すべり目 表示された最下段のループだけが引き上がって、編み糸がそのループの裏をわたっている編み目
λ		右上二目1度 右のループが左のループの上に重なっている編み目	∇		浮き目 表示された最下段のループだけが引き上がって、編み糸がそのループの表をわたっている編み目
λ		左上二目1度 左のループが右のループの上に重なっている編み目	∩		引き上げ目 表示された最下段のループと、その上にわたっている編み糸とともに編まれている編み目
λ		中上三目1度 中のループが一番上になり、左と右のループが下に重なっている編み目	∩		右斜め引き上げ目 表示された各段のループを右斜めに引き上げ、最頂部のループといっしょに編んでつくられた編み目
λ		右上三目1度 右のループが一番上となり、左と中のループが下に重なっている編み目	∩		左斜め引き上げ目 表示された各段のループを左斜めに引き上げ、最頂部のループといっしょに編まれた編み目
λ		左上三目1度 左のループが一番上となり、中と右のループが下に重なっている編み目	∩		ねじり引き上げ目 表示された最下段のループがねじられて、その上にわたっている編み糸と共に引き上げられて編まれている編み目
/		右寄せ目 増し目または減らし目により右に傾いている編み目	∩		ねじり目 ねじって編まれている編み目
\		左寄せ目 増し目または減らし目により左に傾いている編み目	ω		巻き目 編糸を巻いてループとなっている編み目
Y		右増し目 記号該当の箇所の左下のループが引き上がっている編み目	○		かけ目 編目を寄せるか、または針に糸をかけてできる穴
Y		左増し目 記号該当箇所の左下のループが引き上がっている編み目	X		右目通し交差 右のループが左のループの中を通過して交差している編み目
3V		編み出し増し目 一つのループから数字の数だけ引き出されている編み目	X		左目通し交差 左のループが右のループの中を通過して交差している編み目
X		右上交差 右のループが上になっている編み目	≈		スレッド編のように、編地の中に別糸をくぐらせて作った組織をあらわす場合には、くぐらせて別糸を図のように表わす。

MEMO

MEMO

シルバー精工(株)本社・支店所在地

本社・営業 東京都新宿区新宿2丁目16-6
 〒160 ☎〔03〕(356)6111大代
 本社・工場 東京都小平市鈴木町1丁目51
 〒187 ☎〔0423〕(43)2111大代
 シルバー会館 東京都新宿区番衆町127
 〒160 ☎〔03〕(356)0791大代
 札幌支店 北海道札幌市中央区北1条西9丁目3
 〒060 ☎〔011〕(261)1406
 青森支店 青森県青森市篠田1丁目26-12
 〒030 ☎〔0177〕(81)5104
 仙台支店 宮城県仙台市本町2丁目1-5
 〒980 ☎〔0222〕(25)0127
 宇都宮支店 栃木県宇都宮市1条4丁目1-11
 〒320 ☎〔0286〕(34)0366
 千葉支店 千葉県千葉市春日1丁目18-13
 〒280 ☎〔0472〕(43)1525
 東京支店 東京都新宿区新宿2丁目16-6
 〒160 ☎〔03〕(356)6111
 横浜支店 神奈川県横浜市港南区永楽町1-13
 〒232 ☎〔045〕(261)2495
 新潟支店 新潟県新潟市蒲原町3番2号
 〒950 ☎〔0252〕(43)2171
 静岡支店 静岡県静岡市南安倍1丁目7-18
 〒420 ☎〔0542〕(52)1211
 名古屋支店 愛知県名古屋市東区水筒先町2丁目25
 〒461 ☎〔052〕(935)5711
 富山支店 富山県富山市五福中割2292-4
 〒930 ☎〔0764〕(41)2956
 京都支店 京都府京都市下京区西大路通花屋町下ル
 〒600 ☎〔075〕(311)2340
 大阪支店 大阪府大阪市西区新町通4丁目26
 〒550 ☎〔06〕(541)8131
 神戸支店 兵庫県神戸市生田区北長狭通4丁目15-3
 〒650 ☎〔078〕(321)3946
 岡山支店 岡山県岡山市大供2丁目9-38
 〒700 ☎〔0862〕(31)2158
 広島支店 広島県広島市舟入中町3-1
 〒733 ☎〔0822〕(32)9225
 高松支店 香川県高松市中新町2-5
 〒760 ☎〔0878〕(61)4655
 福岡支店 福岡県福岡市中央区長浜1丁目2-4
 〒810 ☎〔092〕(771)8036
 熊本支店 熊本県熊本市北千反畑町1-1東ビル内
 〒860 ☎〔0963〕(43)1581

SILVER

⌘ シルバー精工株式会社